

# 教育だより

「共に生きる社会」に向けて  
増える「外国人」と支援の取り組み

―住民としての「外国人」の権利保障―

共に生きる社会を目指して

120万人とも言われる在「外国人」ですが、町内でも普通に見かけるようになりました。日本語教室を藤久保公民館で開催してから10年目を迎え、現在竹間沢公民館を含め2館で実施しています。言葉の他にも、医療や就労、教育、生活など多くの問題があります。子どもについても、学校での日本語教育、住民のボランティアの協力により実施していますが、学力の問題など多様な課題を抱えています。身近な国際交流・国際貢献として多くの方の協力が望まれます。共に生きる社会を目指して、身近な「外国人」をめぐる活動を紹介します。

## ① 日本語教室の開催



▲教室後の七夕交流スナップ

### ◆みよし日本語教室

三芳町や近くに住む外国人の中には、日本の企業やお店で働く人や技術研修生、日本人男性と結婚した女性などさまざまの方がいます。多くの方が日本での生活に順応するために、或いは日本人と交流するため日本語を勉強しようとしています。みよし日本語教室は、外国人が気軽に日本語を学べる場としてお役に立てるようにと、ボランティアが活動を継続しています。インドネシア・ネパール・インド・中国・韓国・台湾・タイなどさまざまな国から来た人々が熱心に、次の二つの教室で勉強しています。

## ② 子どもたちの学習保障活動



▶地図を使って県学習

【藤久保教室】日時/毎週水曜日・午前10時、場所/藤久保公民館  
学習者はご家庭の主婦が多いので日本語の勉強ばかりでなく、生活情報との交換も重要になります。

【竹間沢教室】日時/毎週土曜日・午後2時、場所/竹間沢公民館  
こちらの学習者はビジネスマンとその奥さん、技術研修生などが中心で、日本語能力試験合格を目指す人が多いのが特徴です。  
両教室とも外国語は使わずに日本語を日本語で教える方式をとっております。ご関心のある方はぜひ一度見学にお出でください。  
連絡先 平田 ☎25910240

### ■みよし子ども日本語広場

町に転入して来る、日本語を母語としない子どもを対象に、学習権の保障、また情報の提供の一助として、①日本語学習支援、②教科学習支援があり、その他にも学校生活の適応指導、進路指導相談・多言語情報提供等を行っています。

日本語ゼロで転入する児童・生徒が大半で、初期の対応がもっとも重要とされます。  
教材については、数学・英語教育が日本より進んでいるなどの場合もありますが、九九がない、分数を習っていない、鍵盤楽器にふれていない、楽譜を習っていないなど、学齢で編入する場合に不利なことが多くあります。  
また学校生活・地域生活に適応するために、時間割りの違い、食べられる物に制限がある、給食がない等の様々な文化の違いを理解し、受け入れる周りの温かい支援が期待されます。

## ③ ふじみの国際交流センターの活動

NPO法人ふじみの国際交流センター

一九九八年に、富士見市・ふじみ野市・三芳町の国際交流に関心のある人達により設立されました。生活支援や各種相談、語学教室やパソコン教室、子供達との交流を目的としたクラブなど多彩な活動を行っています。

六ヶ国語の生活情報誌「インフォメーション・フジノ」を発行しています。その他に、二市一町の行政と協力・連携した取り組みを行なっています。  
問い合わせ ☎25914290  
生活相談専用 ☎26916450

## 高齢大学受講生募集

期間 平成21年10月～平成22年7月まで(月2～3回)  
入学資格 町内在住の満60歳以上の主體的に学習に取り組める人で、10月～7月まで授業に参加できる人。  
教室・受講日・定員  
・藤久保公民館教室 定員120人  
主に金曜日の午前中  
・中央公民館教室 定員60人  
主に金曜日の午前中  
・竹間沢公民館教室 定員60人  
主に木曜日の午前中  
【開講式(3教室合同)】  
日時 10月9日(金)  
午前10時～正午  
場所 藤久保公民館ホール  
申込み・問い合わせ  
9月8日(火)～25日(金)平日の午前8時30分～午後5時15分)までに希望する公民館へ、本人が来館して申込んでください。  
※定員になり次第締切ります(先着順) ●電話、代理申込不可  
藤久保公民館 ☎25810690  
FAX 258196225  
中央公民館 ☎258100550  
FAX 258154666  
竹間沢公民館 ☎25918311  
FAX 259183445

## 中央教室

中央公民館



笑いと健康 机に向かっての講座だけでなく、楽しめる講座もあります。

みなさん和気あいあいと、楽しくまとまっている、中央教室です。第24期は、健康を中心とした講座を行いました。

## 竹間沢教室

竹間沢公民館



陶芸講座 陶芸講座では、血をつくりました。どの絵血も力作・秀作揃いでした。

学習者がんばり、公民館サークルや小学校・児童館・保育所などの地域交流も盛ん。17期高大祭も、地域のサークルや児童とも輪をひろげました。

## 三芳町高齢大学

豊かな人生のスペースに!!

高齢大学には、町内三公民館が主催する教室があり、シルバード世代の皆様が学習意欲や生きがい作りを、個々の実りでとまらず、共に学び合い、協力しあうことでさらに大きな仲間の輪作りに活かしていただき、学生みんなが輝き、地域全体の実りとなることを目的に開講しています。

昭和58年に開講以来、多くの方々が積極的に様々な分野で、意欲的な学習に取り組んできました。シルバード世代の方々の生活に密接した公民館主催の講座形式の学習の他に、学生で組織する自治会で様々な交流目的の事業や、同好の士が集い自主的に運営する趣味のクラブ活動があり、知識の習得から仲間づくりなど協働の学び合いが活発に行われています。

各教室とも、学生皆の人生経験や習得した知識を、地域におすそ分けするために、小学校や地域イベントなどに参加し地域交流を積極的にを行っています。  
ここでは、各教室の特徴的な取り組みをご紹介します。



高齢大学祭 一年の授業、クラブ活動の集大成。内容検討から運営までを学生自身で行います。



小学校との交流 学生の知識や経験を活かして交流の輪を広げる活動をしています。



中公フェスタ クラブ活動の発表の場として中公フェスタがあります。



笑いと健康 机に向かっての講座だけでなく、楽しめる講座もあります。



七夕飾り 竹間沢小学校3年生を招いて、高齢大学生と一緒に七夕飾りをおこないました。

**図書館だより**

中央図書館 ☎258-6464  
火～金 10:00～19:00 土、日 10:00～18:00  
竹間沢分館 ☎274-1722  
火～日 11:00～18:00

9月の予定

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

＜中央図書館＞  
 ●ぐりぐりタイム（絵本・紙芝居・手遊び等）  
 第1・3金曜日（保護者同伴）  
 11:00～11:15 6ヶ月～1歳  
 11:20～11:40 2・3歳～  
 第2・4火曜日 16:00～16:30 3～8歳

●おはなしサークルかかにかごこそこ  
 10:00～12:00 おとな対象  
 ※昔話を覚えて語る練習をしています。

※9月の「としよかん・くらぶ」はお休みします。（通常第4土曜日）

＜竹間沢分館＞  
 ●竹間沢ぐりぐりタイム（絵本・紙芝居・手遊び等）  
 11:00～11:30 1～4歳

※9月は第3火曜日に変更します。（通常第4火曜日）

◆スイミーおはなし会  
 （絵本・紙芝居・ブックトーク）  
 第4木曜日 16:00～16:30 4歳～小学生



【一般書】「老化を照らす」（朝日新聞）  
 三浦雄一郎著 白澤卓二解説  
 マカロンハウス 2008年10月発行  
 請求記号 4 98.2.311

「老化を照らす」健康術」  
 三浦雄一郎著 白澤卓二解説  
 マカロンハウス 2008年10月発行  
 請求記号 4 98.2.311  
 身長161cm、体重86kgのメタボリック症候群で高血圧、高血糖、狭心症、七十五才でのエレベーター登頂は、肥満と糖尿科との闘いだっただけでなく、著者の健康法と生き方を紹介。



【児童書】幼児から大人まで「だてでだてのおばあさん」  
 さのよこ作 絵  
 フレパル館 1975年発行  
 請求記号 児童E14

「だてでだてのおばあさん」というのが口ぐせだったおばあちゃん。ところが九十九才のお誕生日に、ろうそくが五本しかなかったときから大変身！愉快で元気が湧いてくる絵本。



【一般書】「老化を照らす」（朝日新聞）  
 瀬戸内寂庵著  
 朝日新聞社 2008年1月発行  
 請求記号 1 88.セト

「寂庵尼の法話・講演から、「老い」と「死」に関する話題を選んだ傑作選。誰にも逃れることができない「老い」と「死」ならば、せめてできるかぎり美しく「老い」、死のうではありませぬか。」



【児童書】中学生から大人まで「水曜日のゴキウ」  
 クリスチャンルエロ作 河野万寿子訳  
 講談社 2006年9月発行  
 請求記号 児童953.3/ル

人生が終わりに向かうころ、そこには何が待つのか。モーツァルトを愛し、かつては演劇界で活躍した八十才の老紳士が息子家族につかたうそ、十五才の孫娘が語る胸に迫る物語。

# 健康スポーツライフ

このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。  
 問い合わせ スポーツ振興課（総合体育館内）☎258-0311

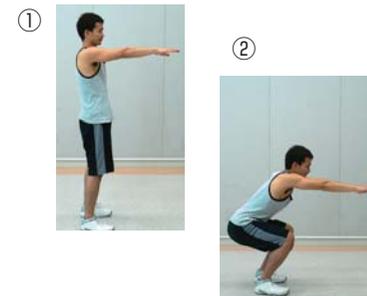
先月に引き続き『お家でできる簡単トレーニング』  
 今月は『下半身編』です。

お腹周り同様に下半身、特にお尻や太ももが気になる方も多いのではないのでしょうか？  
 下半身は上半身を支える土台でもあり、膝痛・腰痛でお悩みの方にとっても強化したい部分でもあります。  
 そこで、今回紹介するのは誰でもできる『スクワット』です。

## スクワット

写真のような両手を前方に伸ばした状態のまま真っすぐ立ちます。そのまま、太ももが床と平行になるまで腰をおろしていきます。この時、両膝がつま先よりも前方にいかないように注意します。きつい方は、膝を曲げる角度を90度または45度くらいにすると良いでしょう。

※写真の①→②のように身体を動かします。



## 初回講習のご案内

フィットネスルームをご利用になるには、初回講習会（予約制）を受講していただきます。毎日3回行っていますので予約をしてお参加ください。講習時間は約1時間です。予約・詳細はスポーツ振興課までお願いします。

●午前の部 10:00～ ●午後の部 15:00～

●夜間の部 19:30～  
 受講料300円（65歳以上200円）

※注意事項

①各講習時間の開始30分前より、2階フィットネスルームで受付を行ないます。開始時間を過ぎますと講習は受けられませんのでご注意ください。②当日は、運動しやすい服装で内履き専用のシューズ、手続きの際に必要な免許証又は健康保険証をご持参ください。

◆休館日：毎週月曜日（祝日にあたる時は翌日）

予約受付 ☎049 (258) 0311

## 《少人数制レッスン》

少人数制レッスン（定員15名）  
 一人ひとりにより細やかな指導が可能となりました。  
 料金 ￥4000/8回  
 予約方法 電話または直接来館  
 予約開始日 9月15日（火）、10:00～  
 レッスン らくらく健康体操  
 日程 10/15.22.29、11.12.19.26、  
 12/3 時間 11:15～12:15  
 担当者 溝越 場所 武道場



## 教育トピックス

9月12日（三）三芳中学校で「総合的な学習の時間全体発表会」が行われます。この日は生徒全員が「主役」になる日です。

三芳中学校では「郷土三芳町を愛する」生徒の育成を目指して、1年生「三芳町の歴史と文化」、2年生「三芳町の産業」、3年生「私たちの福祉」という学年ごとのテーマで「総合的な学習の時間」の学習が展開されています。年間の学習の流れとして「事前学習」体験活動「課題設定」課題解決「探究活動」発表「継続学習」が確立され、地域の方々ともふれ合いながら学習を進めています。

今年度は、7月8日～10日の3日間全校一斉に体験活動を行いました。1年生は、お囃子、車人形、昔の暮らしなど町の歴史や文化に触れる体験を、2年生は23カ所の事業所で職場体験を、3年生は老人介護や子育て支援等の福祉体験を行いました。特に車人形の体験をした生徒は「三芳町に誇れる文化があることがわかった」と感想を述べていました。また、三芳中学校の先生方は「みな生き生き



車人形を体験している中学1年生の様子

## 生徒全員が主役になる日

きと活動し、普段の学校生活では見られない一面を見ることができた」と話していました。

発表は体育館のステージと、教室会場の二つの形態があります。この数年、体育館ではお囃子・車人形の実演と手話合唱、教室会場では模造紙・紙芝居・実演・OHP・プレゼンテーションソフト等のさまざまな形態で、工夫を凝らした発表が行われていました。また、発表会当日は司会進行等全て生徒の手によって運営されます。発表とは違った角度で「主役」になる場面です。このように生徒全員が「主役」になる三芳中学校の「総合的な学習の時間」の学習は、年を重ねるごとに充実し、体育祭、合唱コンクールとともに、三芳中学校の誇りとする三大行事として定着してきました。今年度はどんな発表を見せられるのかとても楽しみです。

## 三芳の文化財

三芳村誕生二二〇年  
 大正十二年関東大震災

三芳一〇二〇年の間に起こった災害で、いま一つ忘れてはならない記憶に、関東大震災がある。大正十二年（一九二三年）九月一日午前十一時五九分。相模湾を震源としたマグニチュード七・九の大地震。東京など関東南部から静岡県、山梨県などに大きな被害を与えた。埼玉県（全国）では、死者三一六八（九九、三三二一人）、行方不明九五人（四三、四七六一人）負傷者四九七人（一〇、三七三三人）家屋全壊九、二六八軒（二八、二六六軒）家屋半壊七、五七七軒（二六、二三三軒）家屋焼失〇軒（四四七、二二八軒）と記録される。

三芳村の被害の公的記録は残されていないが、お年寄りが語る話から、ある程度三芳の大震災の状況を知ることができる。「九月一日は八朔の節句。夕飯に手打ちうどんということになってね。釜に水を入れてカマドにかけて、昼飯を食べたら、カマドに火をいれようというときに、カマドからはなれようとした時に地震。釜の水は、ゆっさゆっさ揺れて、ぼしゅんぼしゅんと釜からはねだしてね。台所の土間はびしゃびしゃ。すごい揺れて、釜の前で立てなくなった。」（竹間沢大正二年生）

「地震が来る前にゴーツという音しかして、その後揺れが来た。前がくた。竹間沢大正二年生）

「畑や地面が海のように波立った感じだった。その晩は東京の空が真っ赤。震災火だ。年寄りが腰巻を張ると、火がこっぴろに來ないって、竹竿に腰巻を張っていた。」（上富大正五年生）

「家の中にいて地震だ。俺は、ばあさんを負ぶって庭にでた。その後後に瓦が落ちてきた。ちよつと遅れたら瓦に押しつぶされてたな。」（藤久保大正元年生）

「地震の後は、余震が何日も続いた。また、でかいのが来るじゃないかと家族でタケヤマ（竹林）に蚊帳を吊って二晩くらい寝た。」（上富大正三年生）

「茅屋根が地面に付くくらい揺れた。」（藤久保大正八年生）

三芳村の被害は、屋根瓦落下、墓石転倒という話は聞くが、怪我人や倒壊家はなかったようである。こうしたことから、三芳を含む武蔵野台地上は地震五弱から五強だったと推定される。未曾有の関東大震災で被害が少なかったからと安心は禁物。農村の時代に比べ、住宅の密集化の進んだ現代の三芳。それぞれ家庭で緊急の対応策を確認し、心構えしておくべきと考える。